



1年学年だより

発行日：令和4年10月31日（月）

発行者：横浜市立南高等学校附属中学校

校長：遠藤 広樹 NO. 6

「経営」について考えよう

校長代理 冨樫 哲一

10月3日（月）から10月14日（金）までの2週間、本校で秋の教育実習が行われ、3名が本校で実習を行いました。本校では、教育実習については本校の卒業生のみを受け入れているため、南高・南高附属中の先輩が久しぶりに母校に帰ってきて、後輩に授業等を行うということになります。

長く南高附属中に勤務している先生の中には、自分の教え子だった、もっというと自分が担任をしていた生徒が実習生として南高附属中に帰ってきたケースもあったようです。先生方としては、少し気恥ずかしい感じもするそうですが、“元教え子”の成長した姿を頼もしく感じたり、自分と同じ横浜市の教員を目指して教育実習に来ていることに喜びを感じたりしているとのことでした。

今現在、南高校には皆さんの先輩（第1期生）が実際に教員として本校に勤務しています。その先生も今年の春に本校で教育実習をしていました。中学生の皆さんの中からも、高校卒業後に本校に教育実習に来て、さらに、いつの日か横浜市の教員として一緒に働いていく人がでてきてもらえたら、本当にうれしいことです。

さて、教育実習生への講義として私は、「学校経営」についての話を依頼されることが多いです。今回の教育実習でも、実習初日の一番最初の時間が私の学校経営の話となりました。

「よい授業をしたい」「生徒に寄り添った教育相談をしたい」「担任としてクラスをまとめていきたい」といった夢をもちながら教員を目指す実習生の皆さんに、いきなり学校経営の話をして、自分のこととしてとらえてもらうのは難しいと思っています。そこで私は、学校経営の中でも「経営」の考え方に重点をおきながら説明をすることにしています。それは、「経営」はどんな人にも必要な考え方だからです。

具体的には、「経営」について、「時間やお金や体力のような資源は無限にあるわけではなく、必ず限りがある。どのようにそれらの資源を配分していけばよいかを考えていくのが経営であるが、その資源配分が適正かどうかを判断するためには目標設定が重要になる」ということを毎回伝えています。

経営する単位は人によってそれぞれです。私が経営するのは「学校」という単位ですが、担任の先生であれば「学級」が経営の単位になります。教育実習生も学級担任になればすぐに学級経営をしていかなければなりません。学級経営をするためには、まずは学級目標を設定して、その目標を達成するために、先ほどお話した、時間や人などの資源を適正に配分していかなければなりません。

もっといえ、私たち個人について考えてみると、自分という人間を自分で「経営」しているということができないのではないのでしょうか。やっぱり、お金や時間や体力などの限られた資源をどう配分していくかが幸せな人生を送るためには重要となります。ここまで読んで、勘のよい皆さんは気付いたかもしれません。そうです。先ほども述べたように、やっぱり自分を「経営」するためにもまず何よりも必要なのは「目標」なのです。

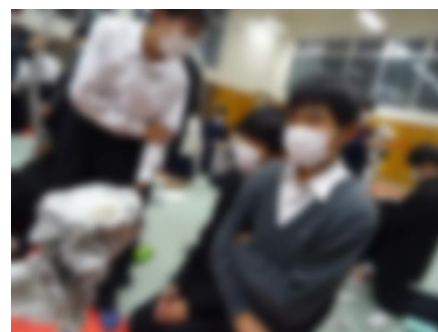
自分が幸せだと感じる人生を送るための「目標」はそれぞれ違うことでしょう。ほかの人の「目標」に合わせる必要は全くありません。もしかしたら中学生の皆さんは自分の人生の「目標」はまだ設定していないのかもしれませんが、ぼんやりとでもいいので早めに「目標」を定めることをおすすめします。

「もし目標が途中で変わってしまったらどうしよう」と心配する人も皆さんの中にはいるかもしれません。しかし、環境や社会状況の変化などで「目標」が変わってしまうことは企業などではそれほど珍しいことではありません（もちろん学校も含まれます）。まずは、進むべき方向である「目標」を定める。そしてその「目標」に向けて進んでいく中で、現状や周囲の状況にあわせて「目標」を再度吟味し、必要に応じて変化させるとともに、資源の配分の仕方を考え直す。こうした営みは「経営」の中でも重要な要素なのだと考えています。

改めて皆さんに聞きたいと思います。皆さんが幸せ人生を送るための目標は何ですか。その大きな目標を実現するために、南高附属中にいる今、皆さんが持っている時間などの資源をどうやって使っていきますか。

新聞タワーをつきました

10月25日(火)7時間目に学年集会を行いました。自分と同じ出席番号の人とグループになり、新聞6枚のみを使って自立可能なできるだけ高いタワーをつくる。その頂上にはピンポン玉を乗せるというチーム力が試されるアクティビティでした。タワーの形もそれぞれで東京タワーのような形をしたものもあれば、新聞でできた箱を重ねたものもありました。手を離れた瞬間に倒れてしまい、もう一度作りなおす様子もあちらこちらで見受けられましたが、そのたびにチームで話し合い改善策を見つけいていました。制限時間20分でできた一番高いタワーはなんと197cmもありました！見事なチームワークでした。おめでとうございます。みなさんの班は同じ11期生としてチーム力を発揮できましたか？以下各クラスからの振り返りです。



1組

今日「7時間目は学年レクです」と言われた時、「あまり知らない人と活動するのか。大丈夫かな…」という不安が心のどこかにありました。しかし、そんな心配はどこにいったのやら！私の班は、とても話しやすい雰囲気が自然と作られていて、自分の意見も言いやすかったし、相手の意見に対してのリアクションも自然としていて、とっても楽しい活動となっていました。私が、新聞タワーを倒してしまった時も、誰一人私を攻めるようなことは言わず、むしろ「頑張ろう！」と励ましてくれて、そんなふうに声をかけてくれる仲間に、感動しました。そして、何事も否定的な言葉でなく、肯定的な、ポジティブな言葉を使うことで、良い雰囲気を作ることができる学びました。それを、今後も心がけていきたいと思いました。

2組

偶然知っている人たちだったけれど、普段なら絶対一緒にならないメンバーで面白かったです。いつも一緒じゃない人とでも、同じ目標を持っていたら協力できるんだなと思いました。私は新しく友達をつくるのが得意ではないけれど、いつも話さない人からは自分が考えつかなかったアイデアを知れて、視野を広げられるんだなと感じました。他のクラスの人とももっと仲良くなって、2年生のクラス替えの時も友達ばかり！！みたいになりたいです。楽しいレクを考えてくださりありがとうございました！

3組

今回のレクリエーションでは、みんな役割は違っていても「タワーを完成する」という同じ目標を持っていました。同じように普段の生活の中でも、一つの目標はたくさんの人たちの力があってこそ達成されているのではないかと感じました。これからは、表面の人だけでなく、裏で支えてくれている人たちにもしっかり感謝をしたいです。また、自分自身もたとえ小さな仕事でも責任をもって全うしたいと感じました。

4組

他のクラス（特に1、2組）の人はあまり交流がなくて、出席番号が同じ人と集まると言われたときは正直少し不安でした。でも、3人でたくさんアイデアを出したり、実際にやってみたりしてすごく明るい雰囲気でできたと思います。相手もすごく話しかけてくれてやりやすかったです。今まではクラス内や多くても3組止まりだったけど、これからは先生も言っていたように学年にまで交流を広めたいです。そのためにも、今回感じた「コミュニケーション、話すことの大切さ」を頭において接したいです。

みちをのつぶやき「人は人の中で成長していくんだなあ」

先日の学年レクでは、みなさんの楽しそうにかつ一生懸命に取り組んでいる姿を見られて、とても嬉しかったです。今回の学年レクのテーマは、「交流の場を学級から学年へ」でした。そのテーマの通り、他クラスの班のメンバーとたくさんコミュニケーションをとっている人が多く、とても素敵でした。人が成長していく上で、いろんな人と関わるということはとても大事なことです。ぜひ11期生のみんなには関われる範囲、気を配れる範囲をこれからもたくさん広げていってほしいなと思います。学級から学年へ、もっと言えば学校へ、地域へ、国内へ、世界へ。みんなの成長を楽しみにしています。